

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスあつみ (あつみ)		
所在地	岐阜県岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	平成26年 6月23日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&jigyoosyoCd=2190100160-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体的には比較的自立されている方も、歩行が不安定で介助が必要な方も一緒にながら号にて外出をしています。夏の暑い時期や冬の寒い時期を除いて季節の花を見に出掛けたり、バーベキューをしたりしています。帰りのバスの中ではすでに何処へ行ったか忘れてしまっている方もおられますが、その時その時の時間を楽しんで刺激を受けています。殆どの方が自分から要望を訴えられることはあまりありませんが、日頃の会話の中から要望や思いを汲み取り、ミーティングで議題にあげて話し合い、ご家族の方に相談しながらその都度対応しています。主治医のドクターともしっかりと連携が取れており、変わったことがあれば迅速に対応していただけるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平均介護度が2.3と、自立度の高い利用者が普通に暮らすホームである。グループホームとしての「本来の姿」を追求し、利用者はそれぞれの力量に合わせてできることを実践している。
 ほぼ毎月バスハイクが実施されており、利用者全員が参加する。利用者にとっては、バスでの旅行もさることながら、旅先での料理も魅力の一つになっている。豪華な料理を前にして満足そうな利用者、イチゴ狩りで摘んだばかりのイチゴをほうばる利用者等々、旅先での楽しそうな利用者のスナップ写真が、アルバムにあふれんばかりに収められている。
 利用開始時に、法人代表が「家族と一緒に利用者を支える」方針を説明し、家族もホームの応援団として協力している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「出来る喜び、楽しくて明るい健康的な生活、急がずゆっくり」を理念としており、職員は理念にそって実践している	グループホーム本来の姿を追求し、元気な利用者が理念通りの暮らしを送っている。ホーム内の目立つ場所に法人理念が掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども会のお祭りみこしが毎年訪れてくださっている 自治会の方が敬老の日のお祝いを届けてくださる	数年前、当地に移り住んだ当初は、地域との交流に苦労する場面はあったが、現在は地域との良好な関係構築を実現している。自治会に加入し、地域の中学校の体験学習の受け入れ等、双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校生徒の職場体験を受け入れており、認知症について分かりやすくお話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員の方の参加にてホームでの生活や外部評価の結果を報告している	年間6回の規定回数をクリアしていないが、自治会役員、民生委員、市の担当者の参加で、運営推進会議を開催している。家族の会議参加が少ない。	関係者の日程を調整し、2ヶ月毎に開催することが望まれる。運営推進会議への家族の参加についても検討を願い、更にサービス向上に繋がる機会となるよう望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方に窓口や電話等で連絡をとり様々な内容に対応して頂いている	困難事例の相談や入居者の情報を共有し互いに協力する関係を築いている。法人代表は県のグループホーム協議会の役員として、積極的に市との交流に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊や、自分で動く危険な利用者に対しては特にきめ細かな声かけと見守りを行っている	帰宅願望が強く、不穏になる恐れのある利用者があり、安全を優先して玄関を施錠することはある。家族も了解しているが、施錠が常態化しないよう、利用者の状態が安定している時や、職員の目が行き届く時には施錠を解くこととしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会をもち、職員一人一人の意識を高めるよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している 必要な方の支援は代表者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方や対応可能な範囲・転倒骨折のリスク等の説明を行い、理解していただけるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動や家族からの意見に耳を傾けミーティング等で話し合っている	入居時に法人代表から家族に説明し、「家族も一緒に利用者を支える」文化を築いている。3ヶ月ごとの介護計画作成の際には、必ず家族を交えて意見を確認する機会を持ち、月に1回「近況メール」を発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者やケアマネを交えてのミーティングで意見を聞いたり話し合いを行っている	職員全員が正規職員であり、意識の高い職員集団として管理者（法人代表）との良好な関係を構築している。毎月開催されるケア会議では、職員は自由に意見を表し、ホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の保持する資格や実績に応じて給与水準・職能手当等条件の整備がなされており、職員も向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会への参加や意見交換の場を持つよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に加入しており、学習会や交流の機会を設けている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院等を訪問し、本人やご家族に会ってアセスメントを行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学して頂いたり、現在の状況や要望等を聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所では支援できない事柄は、他のサービス利用に繋げるよう対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の事や手伝い等、出来る事はやって頂き活躍の場面を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の希望に添えるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・電話・お手紙等で出来るだけ継続の支援をしている	家族や親せきの他に利用者を訪ねて来る人はさほど多くはない。中には、知人が訪ねて来て、一緒に喫茶店に外出する利用者もいる。馴染みの場所の支援(墓参り、帰宅等)は、家族の協力で実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり方に配慮しながら良い関係が維持できるよう見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後もホームに遊びに来て頂いたり、相談事に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをよく聴き、意思疎通が困難な方には表情や行動などから思いを汲み取り対応している	「出来る喜び・・・」の理念の実践として、利用者本人の思いや意向を把握し、自立に向けたその人らしい生活を支援する取り組みをしている。言葉の無い人にも寄り添い、表情やしぐさから思いを掴もうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接でのアセスメントや本人・ご家族・関係者からの情報を基に状況の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分でできる事を無理強いせずマイペースで行って頂いたり、得意な事を楽しんでやれるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者がアセスメントを行い、ミーティング時に代表者・ケアマネ・職員全員で話し合っている	毎月のアセスメント、3ヶ月毎のモニタリングを実施し、必ず家族を含めた三者面談(家族、管理者、ケアマネ)を実施して介護計画の素案を作成している。しかし、利用者の思いや意向が反映されたプランは少ない。	「買い物をしたい」等の利用者の意向が反映されたプランはあるが、さらに個別性が感じられる(その人固有の)プランの作成を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌にて、身体状況や生活の様子等を職員全員で確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診や訪問看護・マッサージ・他医療機関の受診等、様々なサービスを取り入れている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議への参加や消防訓練等の協力をお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとの定期往診に加えて緊急時の往診・24時間電話での対応・総合病院との連携等適切な医療が受けられるようになっていく	協力医療機関は3院あり、利用者、家族の希望する医師をかかりつけ医としている。全て往診対応が可能であり、利用者、家族にとっての安心感になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネが看護師であり訪問看護師に相談し、きめ細かな対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	詳細な情報交換に基づく対応に努めている 代表者が医療関係者との良好な関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について契約時に家族に十分な説明をしている	「グループホームの本来の姿」を追求しており、「看取りはしない」方針を利用開始時に利用者・家族に説明している。ホームでの共同生活の限界を見極め、その時には親身に次の適切な受け入れ先を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、徹底するよう努めている 初期対応の実践も行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練も行っており、地域の方々にも災害時の協力をお願いしている また、地域の方が一時避難場所としてホームを利用できるようにしていけるよう話し合っている	夜間想定非難訓練を含め、年2回の避難訓練を実施している。避難訓練と運営推進会議の開催日を同日とし、会議参加者の理解を求め、災害時の協力をお願いしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を大切にし、その方に合った対応をしている	職員は利用者の生活歴を熟知しており、誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。自立度の高い利用者が多いことから、羞恥心に配慮して、トイレや入浴の介助は同性介助を基本としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、また表情や行動からもその想いを汲み取れるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等を配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行っていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や、アクセサリー等本人の好みのものを選んで頂いている 美容院へ出掛けて行き、自分の好みの髪型にしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している 野菜の下ごしらえ・配膳・食器拭き等、一緒に行っている	地域の市場と提携し、定期的に新鮮な食材が届く。献立は利用者の会話から聞き取った食事のリクエストを加味し、職員と利用者が一緒に調理し、理念通りの「・・・楽しくて明るい健康的な生活」を実現している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、時にはエンシュア等で補いながら栄養を確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助をしている 夜間は義歯の洗浄と保管を行っている 月2回歯科の訪問診療をお願いしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状況に応じた声かけや見守り・介助を行っている	全利用者の排泄記録を取っている。会議で利用者個々の支援方法を話し合い、排泄自立に向けて適切な支援をしている。その結果、殆どの利用者が入居時に比べて排泄の自立度を高めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を作成し、運動や水分摂取・腹部マッサージ等を行い予防に努めている 便秘症の方は便通剤の調整を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分配慮し楽しんで入浴できるよう支援している 必要に応じて足浴やアロマオイルでのマッサージを行っている	隔日の入浴を基本とし、多くの利用者は週3回の入浴機会がある。入浴拒否がある利用者もいるが、無理強いすることなく、職員を変えて声掛けしたり、時間を置いたりして柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすると共に就寝前の雰囲気作り、居室の温度や寝具にも気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作成し全職員に徹底し、きめ細かく症状の変化をチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力に応じた役割分担をして頂いたり、好きな事ができるような場面作りをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバス外出を行っている 普段は近所に散歩に出掛けたり、近所のスーパーへ自分の好みの服などを買いに行っている 希望により家族との外出もして頂いている	ほぼ毎月、福祉バスを手配して全員参加の日帰りバスハイクを実施している。バスハイクは恒例となっており、利用者にとっては「外出」と「食事会」の両面の楽しみとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいを自分で持っておられる方もいるが、殆どの方が自分で管理が出来ない為ホームで預かり金として管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人・知人からの電話にでて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるよう室温や照明を調節したり、個々の状態に応じてリビングやダイニングの座る場所に配慮している また、利用者の作品や季節の飾り物を展示している	トイレは毎日3回掃除を行い、尿臭は一切ない。居室、居間は職員と利用者が協力して掃除を行い、清潔を保持している。食事中はテレビを消して食事を楽しむ時間とし、午後にはカラオケやレクを行うなど、メリハリのある居心地の良い場所としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれている方もある また居室の掃除や持ち物の整理等本人が出来ない部分を職員が行っている	家族も協力して、利用者の過ごしやすい居室づくりを支援している。見学した居室には使い慣れた馴染みの家具が持ち込まれており、趣味の絵を飾り、お気に入りの服や化粧道具を整えたマイルームであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・浴室・トイレ・居室等、安全に利用できるよう手すりやベンチを設置している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社 マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウス (あさぎり)		
所在地	岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	平成26年 6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年 6月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouyoCd=2190100160-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの利用者がひきこもりや孤立しないように、本人の身体能力にあった支援をしている 野外へながら号でのバス外出で、四季の花や動物とのふれ合いなど行っている 利用者が緊急時など、主治医としっかり連携がとれていて迅速な対応をして頂いている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームに関わる法令の意義を理解し、理念(出来る喜び・楽しくて明るい健康的な生活・急がずゆっくりと)職員も実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板が回って来たり、子ども会の子どもみこしが毎年立ち寄って下さっている敬老会のお祝い品も持参して下さる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の職場体験を受け入れており、かわり方が解からない学生もおおいので、認知症について解かりやすく話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員の方々に出席して頂き、ホームでの生活の様子を見て頂いたり取り組んでいる 内容や外部評価の結果など報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方へ電話連絡し、丁寧な対応をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏行動、歩行不安定な方など声かけの言葉や接し方に気配りをし見守りをしている 身体拘束は行われていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合いの機会を設け、尊厳、思いやりの対応など職員一人一人意識の向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の場に参加し、学んでいる 他職員にもアドバイスしながら対象の方の支援に結び付けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて丁寧に説明している 料金、転倒のリスク、医療連携体制など詳しく説明し同意を得るように図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見、要望など丁寧に耳を傾け、ミーティングなどで話し合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日頃からコミュニケーションを図り意見を聞いたりしている ミーティングでも話し合ったりしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力により資格保持や実績勤務状況など給与水準に反映されており、向上心を持って働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行われている外部研修へ参加や情報収集し、多くの職員が受講できるように働きかけしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は協議会に加入しており、勉強会や交流の機会を作りサービスの質を向上させ、取り組みをしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院へ訪問し、本人と家族との面談で要望、想いを丁寧に聴きアセスメントを行い安心していただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際ホームを見学して頂き、今どのような状況で要望等話に耳を傾け聞くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要としている支援内容がホームでは対応できない事柄については他のサービス利用も含め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はやっていただき、自信を持って活躍できるような場を作り、共有できる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に状況報告をこまめに連絡、コミュニケーションを図り、家族との関係が途切れないように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣、友人などの電話、面会、年賀状など継続していけるように支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	精神、心身状況でトラブルがおきやすいので利用者同士の関係に配慮把握し、支援見守りに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も相談事に関して情報提供したりして対応支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の尊厳を重んじ、思いに耳を傾けよく聴き、意思疎通困難な方については表情や行動に注意を払い思いを汲み取るように対応に心がけている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時のアセスメント、本人、家族関係者からの情報で配慮しながら状況把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、自分で出来る事はして頂き、楽しんで生き甲斐を持てるように支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者から話を聞き、利用者担当がアセスメントしミーティング等で職員ケアマネを含め意見交換話し合いをしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況表、生活記録、業務日誌にて職員全員情報把握・実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医(内科) 歯科医・訪問看護・リハビリマッサージ等医療機関への受診、柔軟な支援サービス多機能化を取り入れ取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、市役所、民生委員に連絡をとり、運営推進会議への参加協力をお願いしている 消防署へも消防訓練の協力して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療関係2週間ごとの定期往診、緊急時の電話24時間体制がとれている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師やケアマネが看護師である事で、その都度丁寧な対応して頂いている 必要時処置方法なども学んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へこまやかな情報提供交換している 代表が迅速な対応ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、入所前の契約時本人・家族と話し合い十分な説明をしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、日常的に全ての職員が応急手当やすみやかな対応準備すべき物など緊急時のマニュアルを作成し、初期対応訓練もしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に協力して頂き、昼間や夜間出火を想定した避難訓練を実施している 地域の方々にも協力をお願いし、又災害時ホームの利用をして頂けるように話し合いをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、さりげないケアを心がけたり自己決定しやすいような声かけ対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えに耳を傾け本人の思いや希望を表情や行動からも汲み取れるように心掛けて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら一人一人のペースに合わせた対応支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装を本人さんの好みで着て頂いている 外出時、お正月などお化粧したり美容室へも出掛け本人さんの好みのヘアスタイルにしてもらい支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの物や手作りおやつなど提供している 利用者の身体状況にあわせて刻みやお粥ミキサー食などの支援も心がけて行っている 職員と一緒に準備野菜カット片付けも毎日している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をこまかく毎日記録しており、体重の増減(1ヶ月1回測定)にも注意を払い支援している 心臓病、浮腫がある方も含め全般的に薄味で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアのの声かけ、見守り介助している 清潔保持できている 夕食後は義歯を外して頂き義歯洗浄保管している 歯科医の月2回訪問にてケアして頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら身体機能に応じた対応見守り介助支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を作成しており、運動や腹部マッサージなど行うようにして予防に取り組んでいる 便秘症の方はDrに相談し薬処方して頂き調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のその日の体調や気分に合わせて配慮しながら楽しく入浴して頂けるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や状況に応じて就寝に向け雰囲気作りや居室寝具など気配りしている 安心して眠れるようにアロママッサージやTV内容にも配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品カードを作成し、誤薬や飲み残しがないか等職員全員で徹底し症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の適応能力、身体状況にあった役割や力を活かせる楽しみが持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的にホーム周辺への散歩へでかけたり、スーパーへの買い物や行楽シーズンには手作り弁当を持って花見などへ出かけている 月1回のバス外出も行っており、家族の参加もある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方は家族の方と外出された時お金を持っておられるが、本人さんに管理して頂いている一緒に希望の物を買ひ物に行ったり支援しているほとんどの方が現金所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人さんの希望に応じ電話していただいたり話をして頂いたり手紙などやり取りが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱をまねかないように照明・家具・掲示物など配慮して居心地のよい共用空間作りに心掛けている掲示物は利用者の作品や四季を感じるような物をその都度対応		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が自由に好きな場所で過ごして頂いたり利用者同士で楽しく会話して頂けるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた寝具や家具思い出の物品持ち込まれている方もおり、居心地よいように工夫している居室の掃除、物の整理など見守ったり職員と一緒にいたりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内・外、利用者が安全に移動・使用できるように手すりや外出靴のはきかえ時はベンチを設置してあったり移動空間も広くとってある		